京城新報

●新聞料 ▲一部二錢▲一ヶ月前金廿五錢●三ヶ月前金壹圓▲六ヶ月前金貳圓▲郵稅一ヶ月金拾參錢
●廣告料 ▲五號活字十九字詰一行一回金三十錢▲四號活字十四字詰一行金四十五錢
●陰曆 二月十日
發行兼編輯人　印刷人 山下
發行所 京城新報社 京城西署四小門通 電話六六三番

滿洲鐵道政策(上)

(一外交官某氏)

鐵道は人體に於ける動脈の如き歟、之れによりて經濟交通の支配權を制し、政治上の勢力を左右するに足るものあり、往年滿洲に於ける露國全盛時代は暫く說かざるも、現在の滿洲は鐵道を唯一の武器として日淸露三國鼎立の槪あり、之が鐵道政策は其勢力の消長に影響する所大なり、其綱張を劃し、其勢力範圍を領有す、淸國が近來新民府法庫門間の鐵道と英國シンジゲートの借款によりて敷設せんとするの野心を起し又吉長線連絡停車場設置に關し小策を構へたるが如き漸く勢力機關として鐵道の効力を認たる者なるも其實力なきは到底抗角の勢を保つべからざるは勿論なるも强ち等閑に付すべからざるに似たり、東淸鐵道と折半して日本は南に據り、露國は北を占め、淸國其間に分在し、各々其勢力機關の利用に腐心す、滿洲に於ける鐵道政策は吾人の大に硏究せざるべからざる當面の問題とす

▲滿洲鐵道の現狀

滿洲に於ける鐵道は日淸露三國の各々其管理權を有するものなり、即ち南滿鐵道七百五哩は日本の經營に屬し、東淸鐵道千七十七哩は露國の所有にして關外鐵道三百三十七哩は借款規約に因り、經營の實權を英國に委すれども、表面の管理權を有するものは淸國の中國鐵道公司なり、其既設鐵道を擧ぐれば左の如し

▲滿鐵線 (一)寬城子大連間四百四十一哩(二)奉天安東縣間百八十四哩(三)蘇家屯撫順間四十哩(四)大石橋營口間十五哩

▲東淸鐵道線 (一)滿洲里ポクランチナヤ間約八百七十七哩(二)哈爾賓長春間約二百哩

▲關外鐵道線 (一)山海關新民府奉天間約三百二十哩(二)溝幇子營口間約十七哩

右の外滿洲に關する北京條約の結果吉林長春間約三十哩の鐵道は日淸兩國の協定を以て敷設することとなり居り、兩國技師立會ひ既に敷設線路の測量に着手し、遲くも三月中に完了の見込みなるも、更らに敷設費の調查及び鐵道に關する取極等に就き協議を要するものあるを以て測量に引續き直ちに起工の運びに至らざるべきも早晚敷設せらるゝことは確定の事實なり、近日淸國政府は吉長鐵道を直接滿鐵に連絡すべき哉或は東淸鐵道に連絡すべきかに苦心し、以て滿洲に於ける日露兩國鐵道の死命を制せんと企謀せるが如き情報ありたる事あるも、斯の如き企畫は到底無意味の業のみ、而して長春に於ける日淸兩國鐵道の連絡は北上するものは寬城子停車場(東淸鐵道所屬)南下するものは西寬城子停車場(滿鐵所屬)に於てせるも、將來孟家屯より長春新停車場(滿鐵所屬)と寬城子停車場とを連絡せしむる計畫にて右計畫實行の曉は孟家屯寬城子間四哩餘の線路は廢止すべく、長春新停車場孟家屯間約五哩は既に開通し居り寬城子停車場間約一哩の線路は既に敷設せられたるも、中間二道溝の架橋工事落成せざるを以て開通に至らず同工事は解氷後を待ちて起工せらるゝ手筈になり居れりと云ふ、又滿鐵の經營に屬すべき安奉線の改築完了期限は來る四十三年四月にして遲くも四十二年中に起工せざるべからざるか收入及一般の交通上寧ろ安奉線を變更して安東縣大石橋の鐵道を敷設するを以て得策とすべしとの說あり又建設費に於ても安奉線は三千五百萬圓安大線は二千五百萬圓にして概算一千萬圓を減ずるとの事なるも經費は精查の上にあらざれば比較し難く且線路變更に關しては外交上の問題に屬し軍事上の關係よりして陸軍當局の意見をも斟酌せざるべからざるを以て實際今猶は未確定の儘にて安奉線を現在の儘改築すべきか或は他に變更すべきかは暫く硏究問題とするも若し安東縣大石橋間の線路を敷設するの曉は奉天大石橋間の競爭線たる關外鐵道を孤立せしめ、滿鐵對抗線敷設等の淸國の野心を防禦し得べしと信ず。

間島の現狀(四)

小川理學士の談

△氣候　間島地方の氣候及び氣象に關する材料は氣象の觀測日尙は淺きを以て不充分なれども滿洲內地と北韓海岸地方との中間に位し、年間に於ける溫度の昇降は六七十度の較差を示す可く現に會寧に於て冬期最低は攝氏零下三十五度に達し最高は三十九度半に上りたる如き事あるも夏期は冬期の寒冷に反し高溫度なるを以て農作物の生長は良好なり殊に雨雪量及び大氣溫度は滿洲は勿論會寧附近よりも遙に三國地方多量なれば從て農業上好氣候を有するものと推測せらる可し

△農業　間島の最大富源は農産にして現在の耕地は僅々五六萬町歩に過ぎざるも可耕地は三四十萬町歩に達するを以て現耕地の五六倍の未墾地にあるものと見て可なり其地味は頗る肥沃にして昨年の如き豐作には粟の穗一尺四寸に達するを見受けたる事あり主要作の地は粟を主とし高粱、大豆、玉蜀、黍、大麥、小麥、小豆等之に次ぎ水稻は甚だ少量なり此他煙草大麻青麻器栗の生長頗る宜しく煙草の如きは最も地味に適するものゝ如く將來望を屬す可きものなり農産製造業としては高粱酒即ち燒酎の製造業は現に唯一の製造業にして農民經濟の重要なる産業なり一半は間島內部の需要を充たすの他部分は渾春に送り之と引換に雜貨の仕入を爲す又燒酎業者は副業として雜貨藥品等を販賣し或は金貸業をも兼營し間島に於ける十戸の燒酎屋は各手形(帖子)を發行するの特權を有し一時は總額四萬圓に達したれども錢との間に差を生し吉林省の官帖發行ありし後は燒酎業者は破産の悲境に沈めり農産物の價格は交通不便なる爲め遠隔地に輸出せられざれば歲の豐凶に從ひ高下著しく昨年の如きは北韓一帶の地方豐作なりしを以て間島穀物の需要少く收獲當時は粟一石二圓內外大豆一石二圓五十錢乃至三圓の廉價にして龍井村の粟一斗(約三升五合)十八錢の小賣相場なるに反し僅に十四五里を距てたる會寧近傍にては三十錢なりしが如きは如何に運輸交通の不良なるかを知る可し

△林業　滿洲一帶は古來森林地として聞ね間島の如きも淸韓人の移住前には到る所森林立木を見たるも開墾に伴ひ平地丘陵地は伐採せられたり然れども山間には尙は樅、赤松、落葉松等の針葉樹及其他濶葉樹に富み現時は支那人若干の伐木稅を拂ひて自由に之を採りつゝあり詳細なるものは專門家の調査を經ざれば其價値は明ならざるも薪炭及び普通の用材は南滿地方の如く乏しからず

△商業　農民の移住地にして未だ大都會の存するなく局子街頭道溝街銅佛寺大拉子等には淸人の商店あれども其他は市街地と見做す可きものなく韓人部落には鐘城の對岸に在る湖川街稍や市街の形を爲すに止まり統監府派出所の設置以來龍井村は南滿最大の商業地たらんとする勢あり商品は金巾雜貨石油等を主とし定期市日には各地方より集まれる淸韓商店は露店を張り農民等は農産物薪炭等を馬車牛車に乘せ來りて賣買を行ふ貨物は從來主として浦鹽斯德よりポシェット灣のヤンチカに入り渾春を經て局子街に輸入せられ吉林よりは支那雜貨(頭飾類(西)等の小量輸入せらるゝに止まりしが派出所設置後日本商人は淸津港より會寧を經て日本製金巾木綿煙草雜貨等を輸入し目下植竹商店の一手にて此等のものを販賣し居れるが龍井村の開市日(毎月六回)に韓商に卸賣する金巾のみにて一二百圓を下らずと云ふ斯の如き狀況なるを以て間島に於ける輸入商品は將來頗る有望なる可し

仁川金融情況

▲一月中

本月は舊年末の金融繁忙の後を受けて比較的閑散の狀態を持續したるものゝ如し輸出は結氷並に暴徒等の原因よりして著しく減退し其額二十七萬餘圓に過ぎず就中大豆は前月來引續き相應に資金の需要を見たりしも前月程盛ならず米は結氷並に暴徒も亦意外に入津薄く當一二外來商人の大口買入並に大連向需要の輸出ありしのみにて荷爲替取組高は前月に比し大に減少せり又舊正月前越年資金融通のため韓人の玄白米庫入ありしも其高多からず輸入品は舊正月前に係はらず一般に荷動き捗々しからず綿絲の如きは間島への狀なりしも大体に於て諸品仕入控へのため此の種の資金需要は例年に比し頗る閑散なりし加之淸韓舊節季も當港金融上には差したる影響を認めざりしのみならず却て淸商は舊債は一應決濟するを以て習慣とするを以て此方面に於ける貸出金の大部分は回收せられたり而して一般の取引は內外共沈靜の狀態に在り從て金融界何等の活動を呈せず極めて緩漫の中に越月せり當港輸出品の大宗たる米は今日迄の出廻り甚だ僅少且つ昨年の豐作を以てしては尙ほ多大の閑ひ米あるべき見込なれば解氷に際し且つは內地騷擾の沈靜するに連れて出穀さるべきは疑を容れず麥作は目下の處經過極めて良好なるのみならず冬期結氷中殆んど休止の狀態にありし諸工事も漸次再興するに至れば將來に於て市況も多少回復するに至るべく旁金融上も幾分の活氣を呈するなるべし然れども日本金融界の警戒依然として解けず當地も亦た淸韓人歲末決濟資金の各地に吸收さるゝもの多く爲めに前月に比し更に一層の緊縮を見たるは事實にして日本金融界の形勢甚だ非にして舊節季前日本銀行貸出金高は近來稀有の高に上ぼり而かも節季後の回收甚だ遲緩なるが如く當港も亦當分其範圍を脫する能はずして近く金融の引緩みを見ざるべし

▲二月中

本月は淸韓人の正月休明けにて殆んど月の半ば休業同樣の態にて輸出も前月に比し約三萬圓の減退にして米の出廻はりは正月中の費用準備のため前月より稍々多額に上ぼりしも內地安のため大阪向け輸出は非常に減退し豆類も亦出廻はりの遲にて輸出振はず此方面に於ける資金の需要は前月に比し尙ほ減少せり輸入品も亦前月に比して一層の減退にて輸入重要品たる金巾類は本國相場は別に變りなき姿なるも此際上海南の亂高下を來し或場合に於ては本國より輸入するよりも寧ろ上海を經由するの利益あるより直輸入筋に於ても上海爲替相場に注意し上海より輸入するの變象を呈し當地銀行に於ても同爲替相場の漸次下落するより彼等の需要に應ずる能はざるに至り取引上影響を與へたること鮮からず而して各銀行共內地金融逼迫の餘波を受け大に警戒を加へ手確なる向にあらざれば貸出を謝り回收に務むるの傾きを呈し銀行の在金は增加するも貸出は減少し金融の緩漫なること前月より一層甚しきに至り民間金融は漸次逼迫して金利も稍騰貴するに至れり內地金融逼迫の餘波一層當港に波及するか其他特別の現象を見ざる限りは既に貸出したる者に對しては今少しく金融狀態が恢復する迄當分の間猶豫し又は總ての取引に對し今日の如き引締めをなさず成るべく緩和なる方法に出づるにあらざれば近き將來に於て一層の逼迫を見るべきを慮るゝに至れり

暴徒討伐情報

(軍司令部着報)

△柳洞の戰鬪　橫城、臼井中尉以下十八名は三、五兩日午後三時柳洞(橫城東北方約三里)クリ洞北方約一里)に於て約百五十の賊と合戰し約二時三十分の後之を北方に潰亂せしめたり賊の死五十二負傷若干銃二十五雜品多數鹵獲す

△中島縱隊報告　二月廿八日鹽南面大谷の賊を夜襲せんとて午前四時盤溪を發し暗黑と雨とを冒し午前六時大谷に至り包圍搜索をなしたるも賊なし土人の言によれば三日午前五六十の千深夜當地を通過して西北方に去れりと五日午前十一時半鹽南面地に至りし土人を捕へて賊情を詰問せしに二月廿六日賊約十四五此地を通過して太田方向に去れりと依て午後二時半太田に着し偵察するに約四五十の賊は昨夜當地西南約千米突の山中にある仙察寺に入り込み方に遁走せんとせしも急峻なる山岳あるを以て脫走容易ならず之を射擊して其三十七を殪し六を負傷せしむ銃二十一脊負袋十四鹵獲す

天主教と自衛團

江原道伊川郡龍山里及び上浦里には天主敎宣敎師佛國人居住し布敎に從事し頗る敎徒の信用を博し敎徒は宣敎師を恃みて郡守面長の命令に反抗するの傾向あり今次自衛團組織に當りても惡敵を以て之を迎へ宣敎師亦之を煽動するものゝ如く山內面長の申出によれば宣敎師並に敎徒は自衛團は一進會の事業にして伊川郡守の專斷に出で中央政府の命令に非ざるを以て敎徒は之に加入するの義務なしと唱へために脫團者續出するに至れり尙龍山里居住の宣敎師は頻に敎徒を煽動し防害をなすのみならず上浦里居住の宣敎師は伊川駐在巡査に對し郡守の行動を批難せる書面を人民をして轉送せしめたりと云ふ

小說

絃のみだれ

(九十三)　永井櫻園

扨又養父勇五郎の近狀如何にと云ふに、店も資本を入れたゞけ、其だけ以前に比較すれば、客足も繁くなる、從つて收益も多くなる、淸之助からは、月々四十五圓と云ふ金子を與へる、殆んど官吏に比較すれば、腰辨當の屬吏が、俄に高等官に昇任したと同樣、其日生計の安道具屋が、一足飛の出世を爲たゆゑ、近所隣家では其の境遇を羨まぬものはなかつた。けれども、渠は其金子を貯蓄するでもなく、金子の廻るに任せ、朝湯から歸ると飲始めて、終日を酒と親むで飲暮すのを無上の娛みにして居る、これは彼が好酒癖の然らしむるのであるが、一ッは淸之助は大川に遣る約束が成立つて居るからである。淸之助は大川に嫁つた曉は、道具などは賣れやうと賣れまいと、月々相當な手當を貰ひ、樂隱居をして暮されると云ふ、依賴心を有つて居るからである。



今日もまた酒で、乾鮭、海苔、佃煮など三四品を肴に、朝から飲かけて居ると、丁度戸外を魚商が勢宜く荷を擔いで行くを認めて、早くも呼入れ、八九寸もある鯛を料理させて、舌皷打つて傾けるのである、夫を見た淸之助は、勇五郎の贅澤に驚いて、かゝる贅澤が習慣になると、やがて自分が寄席を廢業た曉は、奈何する意であらう、養父の意では自分を大川へ嫁つて、月々の手當で安樂に暮す心で有うけれど、自分は始から大川などへ嫁く心は塵ほども無いのである、況してや他人こそ知らね、尋常ならぬ身となつて、奈何して嫁入などが能るものか、自分が大川へ嫁かぬ節は、資本に借た三百圓は乾度請求して返させずには置かないであらう、されど三百圓といふ纒つた金子の出來やう理がなければ、約束に依つて店の有だけの道具を殘らず渡すより外はない、のみならず、自分が廢業すれば、月々渡した四十五圓の金子も入らぬ事になる然うなつた節には、原の安道具を賣つて居た時代よりも一層困難な境遇に沈まねばならぬ、それに有餘る財産家でも爲ないほどの贅澤をして、惡い習慣が沁み込むだ節は奈何爲る意か知ら、と既に遠からず來るべき運命を想像して、漫に心配でもあり氣の毒にも思ふので、

「ね、お養父さん、人間と云ふものは今日あつて明日ない生命だから、老少不定とさへ云ふほどで、明日の日に私が亡くなつて了はないとも限らないが、お前さん那樣に贅澤な眼を盡して、若や私が亡くなりでも爲たら奈何する意なの、月々四十五圓と云ふもの缺さず渡して、店の方もいくらかづゝ利益があるだらうし、いくら少くても五六十圓の金子が入るのに不時の準備に殘すでもなく、朝から晩まで其通り鯛の料理なんかで飲通しにして飲むと食ふとに使つて了ひなさるが、豈夫の時に奈何する考なの、た[illegible]さんの考へでは、私を大川の家へ嫁れば、月々手當を貰つて樂に暮して往ける心算かも知らないけど、當事と云ふものは外れ易いもので大川から緣談を斷つて來て御覽なさい忽ち的が外れるでせう、假令また大川へ往つたにしてからが、財産なんてものは何時なくなるか知れたもんでもなし、殊にあゝ云ふ稼業ですから、眞箇當にならないと思はなきやならないでせう、然うなつた節は、下れる意でもあり、貰う意で居ても、約束通りにならないもんですから、好な御酒をお廢めなさいとは決して云ひませぬが、あまり贅澤を爲ないやうにして、何程かづゝでも不時の準備に殘すやうにして下さいな」と賴むが如く訴へた。

天下太平脾肉之歎

京城新報

暴徒の鎭定近きにあり、暴徒の蜂起は漸次減少せりとは、東京に滯在せる統監府員の好で語る處也、之が爲に祖國に於ては頗に暴徒の鎭定近きにありと信ずるもの多し、何ぞ圖らむ、暴徒は今に勢ひ猖獗却て漸次に蔓延せむとするものゝ如し、聞く駐劄軍側に於ては一擧に討伐せむとの議あるも統監府側の兎角果斷を缺きて折合はずと、之れ果して事實なりとせば余輩は統監府に向て果斷決行駐劄軍をして任意に討伐せしむることを勸告す。

一昨日の陸軍紀念祭に軍司令部に造られたる赤毛布製の大達磨を見る、銃を携へ目を瞋らし四邊を睥睨せるの姿は、寓意か故意かは知らざるも長谷川將軍に似たる所あり村田少將亦た軍司令官に似たりと評せり、而して之に天下太平脾肉之歎と書せるを見る、東京に於ては暴徒鎭定近しとて天下太平を粧ひ、韓國內地の實况は知られず、駐劄軍は脾肉の歎に堪へずとの諷刺にあらざる乎、之を造りたるものは何等の考もなかりしならむが、天の默示は此達磨を藉りて統監府の優柔不斷を叱咤するに非らざる乎、余輩は此達磨に對して悵々敬意を生じ、等しく脾肉の歎を禁ずる能はざりき、暴徒討伐は時機を待つの必要なし、一日早ければ一日の得あり、斷じて行へば鬼神も避く、況や草賊に等しき暴徒をや、余輩は其斷行の速ならむことを統監府に囑望す、

對星樓茶話

△或人暴徒の性質を區分せよと謂ふ、余答へて曰く暴徒に三種あり、討伐すべき暴徒は其一也、鎭撫すべき暴徒は其二也、警戒すべき暴徒は其三也、其第一を以てせば韓國は滅亡せざるべからず、其第二を以てせば韓國は治めざる可らず、其第三を以てせば韓國は存せざる可らず、今や其一は衰へて其の二は增癈となり、其の三は動かず、是れ吾人の暴徒論なり。

△居留地病院を廢すること其移轉するよりは上策なりとす。

△韓國に於ける本邦人中最も異彩を放ちたる人物を舉ぐれば大三輪長兵衛君を以て第一と爲す、其次ぎは小川實と云ふ男なり、其次ぎは光岡夫人なり。

△京仁各新聞を讀むにタイムスは編輯に於て第一とす、日日は各方面の消息を能く整理し、朝鮮新報は題目の撰擇に長し、大韓日報は手近き問題を簡擇するに長せり、京城日報は社說尤も卓拔にして往々人の意表に出づるあり、京城新報は雜報卽ち論說、主張卽報導と云ふ處に妙味あり。

△京城に於ける多くの政論は神經衰弱より產出す。

△韓國保護は日本人に取りては海外政治の初步なり、初戀なり。

△馬蹄銀は德壽宮より湧きつゝあり、砂金は嚴妃の御手許より降りつゝあり

東京電報

▲專任大使の顏振れ

專任大使は總選擧前に任命せらるべく其候補者は都築馨六、井上勝之助、千家尊福、末松謙澄、秋元興朝、加納久宜等の諸氏呼聲高し(一日發)

▲陸軍紀念會の模樣

陸軍紀念會は竹田宮朝香宮久邇宮殿下以下元帥其他陸海軍將校五百餘名にして開宴中大山元帥發聲の下に　天皇陛下の萬歲を三唱し極めて盛會なりき

▲危機大に迫る

外務當局者の明言する所に據れば淸國に對する最後の準備既に成り海軍省とも打合濟みにて今や方に危機一髮の間に在りと

(八日發北京電報によれば辰丸抑留事件に關しては淸國政府は我要求の全部を容れたりとありしに今また東京電報は其の然らざるを報ず想ふに北京電報誤りならん)

▲葡國の態度

葡萄牙國公使は目下澳門に於ける辰丸抑留地點に關し調査中なるが結了次第北京に赴き淸國政府の不法行爲を質問する決心なりと云ふ

▲伏見若宮御危篤

江田島海軍兵學校に御在學中なる伏見若宮殿下御病氣危篤に陷らせられ御父宮殿下其他同地へ急行遊ばさる

▲總選擧期日確定

衆議院議員の總選擧期日は政府の都合にて愈々五月五日に決定す

▲新潟市の損害高

新潟市の火災損害額は五百萬圓の多きに達せり

▲個人損害救濟案

本日貴族院に於て日露戰役個人損害救濟の請願を可決せり(以上十日發)

▲米國下院と日本大博

高平大使よりの報によれば米國下院委員會は日本大博覽會參同費を五十萬弗に倍加し其の出品物は無料にて運送するの案を可決せりと

▲拓殖會社補助案

東洋拓殖會社補助案は本日衆議院に提出せらる同院に少數の反對者有る外兩院共無事通過すべし

▲南淸の革命軍

南淸地方に於ける革命軍は廣西全省を占領し既に民政を布くに至れり

▲新潟の大火

昨夜新潟市に大火あり千五百戶燒失せり

▲東北地方の暴風雪

昨夜來暴風雪のため東北地方被害甚しく滊車は不通となりたる箇所あり電信も諸所不通となれり

▲駐韓憲兵渡航期

各憲兵隊に於て敎練中なる韓國憲兵千二百名、本月廿八日出發渡韓の筈なり(以上九日午後發)

各地電報

▲車道善以下の歸順

咸鏡南道の賊魁車道善以下五百三十八名は九日甲山郡新豊里に來り歸順を申出でたるにより許可せり(十日咸鏡發)

(車道善は甲山地方暴徒の總首魁にして曩に我軍隊に歸順を申告せしも其誠意なきを認め一旦拒絕せし者なるが今回再び歸順を申告したるものなるべし)

▲暴徒收税員を襲ふ

本月六日夜暴徒十三名丹城郡新面新昌里租稅領收員元泰吉を襲ひ地稅金三百五十一圓八十八錢を同七日夜暴徒十四名同郡法勿面租稅領收員吉副甫を襲ひ同金百三十二圓四十錢を掠奪すとの報あり當警察に於て搜査中なりと

●連絡船遅着　▲關釜連絡船は風波の爲め昨日午後三時釜山に着したるを以て郵便物は連絡列車に接續するを得ず已を得ず釜山局に止め置き本朝の直通列車に搭載して發送されたれば日本よりの郵便は一日遅着すると云ふ

●稅關長の晚餐會　宮木仁川稅關長は本日午後六時より新任稅關局長及び事務次席の高山氏を主賓とし銀行會社十數名を招き晚餐會を開く筈なりと

雜報

一昨日の乾元節

一昨十日は隆熙皇帝第一回の乾元節に相當せしかば各大臣以下內閣及び宮內府の勅任官以上は午前九時三十分より曾禰副統監以下統監府各高等官は同十時より長谷川軍司令官以下各將校は同十時三十分より在京領事團及び屋外國人等は同十一時昌德宮に參內し謁見を賜はり賀辭を陳べ退出したれば鐘路より敎化門に至る大通りは金色燦爛たる官人が馬車や人力車にて往復するもの絡繹として大に人目を延き戶々太極の國旗を掲揚し敎化門前と大漢門前と鐘路の中央とには大國旗を交叉し之より小旗と球燈とを蜘蛛手に曳ひて裝飾したるなど如何にも太平の相を現はしたり斯くて皇帝には內外臣僚の謁見を終らせられ〇時三十分皇后と馬車に同乘あらせられ敎化門出御德壽宮に行幸あらせらる此日李總理、趙法部、李宮內等の各大臣、丸山警視總監、禮式課長、禮式官、女官等供奉し騎兵二小隊槍旗を携へ前後を警衞し一時着御太皇帝に御對顏問安あらせられ義親王嚴妃其他の皇族參列され祝賀の宴を開かれ午後五時還幸あらせられたり當日の御通路の市民は街路に諸列し熱誠に奉迎したるは近來の盛儀なりし

敦德殿夜會の槪況

一昨夜敦德殿に於て開催されたる乾元節夜會には副統監以下內外國人四百餘名の出席者あり席上副統監の發聲にて韓國皇帝陛下の萬歲を三唱し極めて盛會なりき

◎韓皇陪食　韓國皇帝は昨日午後二時三十分より總理大臣以下各部大臣及び勅任官以上の官吏を昌德宮に召され御陪食仰せ付けられたり

●太皇帝の送金　十一日太皇帝には韓太子へ左の電報を發し金一千圓を御送金相成たり

誕日の宴を開く爲め金一千圓を送る別に料理を設けて之を行ふ甚好し父平信

陸軍紀念祭

春寒料峭尙ほ肌を刺せど麗かに晴れ渡る小春日和の長閑けさは萬古に亘りて名譽ある我が陸軍紀念祭の祭典を祝ふものゝ如し一昨十日は實に我が五十萬の壯丁が露の暴慢を懲らすべく一擧奉天府を擊攘し大和民族の武名を洋の內外に顯したる三年目の紀念なり口あるものは以て謠ふべく手あるものは以て舞ふべし一片敵愾の心一と度當時を追懷す誰か太白を泛べて此の榮譽ある紀念日を祝はざるものやある

此日市民は一般に業を休み各戶毎に國旗球燈を掲げて何れも祝意を表せしが先づ午前十時となるや軍司令部にては數十發の煙花を打ち揚げ之が祝典を擧ぐる旨の合圖を報せしに早や正午頃に至る迄には京城は勿論仁川龍山水原の紳士紳商及び韓國大官等約九百名の人員集會せしが聽て零時三十分主人側にありては長谷川大將以下將校連次に來賓側にありては曾禰副統監を始め各高等官綺羅星の如く式場に參列し茲に莊儼なる祝典を擧行せり扨て式了はりて場內にて擊劍、手踊、角力等各種の余興は一齊に開始せられしが來賓は各自思ひ〱に余興を廻覽し而して午後一時を報ずるや茲に食堂は開かれ和氣洋々春風堂に滿つるの觀ありしが宴酣なるのとき長谷川大將は壯重なる音調もて一篇の祝辭を述べ了つて君が代を吹奏次で任內相は韓國側を代表して大日本天皇陛下萬歲「大日本帝國萬歲を三唱し長谷川大將は日本側を代表して韓國天皇陛下萬歲、大韓帝國萬歲を三唱せり時は移りて二時となるや當日第一の觀物なる模擬演習開始の報ありしかば主客一同食堂を出で見物せしが其の光景の壯絕痛絕なる恰かも實戰を見るが如かりき場所は好道關の西北隅より向ふ南山の麓に流るゝ大谷川にして攻擊軍は四門の野戰砲を備へ又防禦軍も對等の陣勢を張りて茲に目醒ましくも交戰せしが其の間には鐵條網あり地雷火ありて一も實戰と異ならず殷々の響轟々の音地軸も爲めに裂けん許り恰かも奉天當時の激戰を眼前に彷彿せるものありたり此摸擬戰鬪約四十分、夫れより大園遊會は催されしが場內には麥酒、鮓、汁粉日本酒、おでん、壽司等の接待ありて紅裙其の間を周旋して來賓に滿足を與へしめたるが斯くて一同十二分の歡をつくし解散せしは午後四時頃なりき

陸軍紀念追吊會

昨日午後二時より南山町の本願寺に於て陸軍紀念追吊會を執行せり來會者は統監代理佐々木秘書官、藤波書記官、村田中將、長谷川大將代理、師團長代理、明石憲兵隊長、横山聯隊長、韓國軍部大臣代理及び各大隊長以下幕僚各中隊長、一般信徒等百餘名にて副統監長谷川大將、師團長、山口太兵衛の諸氏よりは香奠を供へられたりと

宮內府債務の處分

(空權屋の恐慌)

宮內府にては過去十數年以來帝室及び各宮の日常調度並に諸般祭禮儀式等の際商人より納入したる物品代の負債巨額を有し居りしが帝室財產整理局開設以來專ら其處分を調査せしが此の機に乘じ例の空權屋一流の輩は韓人より其の債權を半額或は三分の一等にて讓り受け直接宮內府に其の下渡しを運動しつゝあり當局者は之れに就き統監府とも協議を遂げたる結果其の弊害の甚しきを認め斷然右債權の讓渡賣買は之を認めざる事とし現に末永某が韓人張鍾植外十人より讓受けたりと稱する明禮宮負債三十六萬餘圓の債權は之を認准せずとて去る四日付を以て關係書類一切を返附したりと云ふ尙今後も此の類の下渡請求は全然之を受理せずと

石材土砂の採取に就て

韓國に於ては未だ石材土砂採取に關する法令の規定せられたるものなかりしが今回內部より之に關する規則を發布する筈にて目下制定中の由なるが其の山林中に存在するものに就ては過般發布せられたる森林法に基き勅令を以て發布せらるゝ森林產物利用に關する規則を適用し農商工部之を取扱ふとなるべく其の宮內府の所管の地に存在するものに就きては右兩法を適用せず直接宮內府に於て之を取扱ふべしと云ふ

●警視總監の訓示　丸山總監は去る九日署長會議に於て左の訓示を爲したり

一、近來牛馬を虐待する者頗る多きを見る街路に於て牛馬の負擔に堪へざる過度の重量を積載し頻に鞭打を加ふる如きは看過すべからざるに屬す而かも巡査が之を制止せざるのみならず却て馬夫等に助勢して共に牛馬に鞭打を加ふる者あるに至りては實に不都合と謂はざるべからず注意取締を要す

一、近來自轉車の使用增加に伴ひ交通上の危險少からず現に過日黃土峴に於て自轉車に乘り乍ら他の自轉車を牽き行くを見たり又一人乘を二人にて乘廻す者あるは屢々見る處なり如此は交通上の妨害たるのみならず危險の虞少からず故に自今見當り次第下車せしめ嚴重戒飭を加ふべし又牛馬車輓にして車臺に打乘たる儘街路を行くものあり是亦嚴重制止すべし

一、塵芥掃除に從事の囚徒等は除芥の後余臕を附近の下水溝に掃込む者あり監督者に於て注意すべし

一、西小門外屠獸場より獸肉を運搬する者に無蓋の箱を以てする者あるを見たり衛生上危險に付き是等は必らず有蓋の箱を使用せしむべし

右訓示終了後人力車營業取締規則案の各條に就き審議する所ありたり

●日兵門衛　大漢門には韓兵守衛し居りしが八日より之を撤し日本兵二名是が守衛に任ずるといふ

戶叶書記長談

京城日本人商業會議所書記長にして兼ねて大韓日報の理事なる戶叶薫雄氏は新年匆々病中の嚴父を見舞ふべく東上せられ數日前無事歸城せられたり、往訪記者が氏に東京土產を請求したるに對し氏の爲されたる談話は左の如し

東京の土產の請求之は甚だ恐入つた余人なら兎も角此貧乏な戶叶が君に土產を買つて來る筈があるものか當て事は大抵相手を見てするが良い呵々當事と云へば自分は滯京中桂侯にも面會したが彼の東洋拓植會社は愈物になるらしい、伊藤公が同會社の設立に反對するなどゝは何かの間違であろう、自分の知つた範圍に於ては拓植會社法案が議會へ出れば直ぐ通過する形勢である、日韓合併の手近い所は內地の會議所と在韓の會議所とを結付けることである之は自分の素論でもあり旁々滯京中少數盡力するところがあつた其結果は多分遠からず明になるだろうと思ふ、病父は少數快き方なるを以て發京前房州館山へ轉地療養せしめたり、東京政界の模樣などは會議所の番頭が語るべきことにあらず

云々と他に趣味ある種々の土產話を爲されたり

●三浦理事官の視察　京城理事廳理事官三浦彌五郞氏は今明日頃出發永野屬を隨へ太田、太邱、密陽、釜山等の京釜沿線及び馬山、木浦、群山等に於ける狀況視察の途に就かれ本月末頃歸廳の豫定なりと云ふ

●組合敎會の活動　日本組合基督敎會派に屬する日の出町京城基督敎會の傳道應援として同派第一流の稱ある牧師にて現に三十年間大阪敎會を牧會しつゝある宮川經輝氏及び嚢きに京城學堂長として約十年間當地に於て令名あり現に神戶敎會牧師たる渡瀨常吉氏其他　兩名は近日中來京せらるゝ筈なり殊には綱島牧師の同敎會に又メソヂスト敎會には平岩牧師の來援さるゝ等あり今又前記諸氏の來京ある等當地精神界の爲め大に喜ぶべきことゞもなり

●密輸とデーシー號　同稅關の小蒸滊デシー號は羅新浦に於ける淸人密輸船の處分する爲過日同港に碇泊中なりしが今明中に仁川に歸港の筈

載寧郡の暴徒

載寧分遣所にては去る五日午後〇時二十分頃銀波と交通の聯絡を計らんが爲め憲兵數名を派遣せしが折納峴より少時遅れて砂利院分遣所の憲兵四名銀波の東北約五百米突の地點に達したる時暴徒等は長機山の高所より右の四名に向つて急射擊を開始せしが我は寡も之に屈せず急ぎ前記の憲兵數名に之が應援を乞ひしより一行は早速應戰し極力猛烈なる攻擊を加へたるも賊は頑として動かず勢を極めて我に抵抗を試むるより我は賊の隊中首魁と目星しき者に向つて齊射擊を加へたるに賊は漸く逡巡退却せしかば我は勢に乘じて之を追擊せしも終に其の蹤跡を失ひたり

●仁川五八支店長　仁川五八支店長板倉次郞氏は揚井增藏氏と進退を共にする爲今回辭職したり、氏は在勤中非常の蓄財を爲したる由なれば當分閑散の地にありて風月を樂しまるゝなるべしと云ふ

●賊徒と藁人形　砂利院分遣所より其の筋に達したる報告に依れば去る三日午後〇時三十分交通聯絡のため憲兵數名銀波の北平里チョンギトンに至りしに約八十名許りの賊徒長機山の山頂に屯集し俄然我を目掛けて射擊を加へたるに依り俄は之に應戰しつゝ銀波に着せしに折柄載寧の交通路偵察の爲め出張したる兵士四名に出會せしかば茲に大に力を得早速擊攘せんものと思ひ內二名を監視の爲め同所に殘し置き他の一隊は前進して之を攻擊せしに彼は極めて頑强の態度を取り我に抵抗せしが終に潰走せり我は他迄之を追擊せしに賊は四散して其の影を失へり其の際賊は藁人形四個を遺棄せしが察するに彼等は其の多數を裝ひ以て我を脅さんが爲めに斯く藁人形を作りしものならんか

公人私人

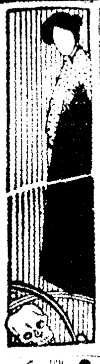
△時尾善三郞(陸軍工兵大佐)　巴館城へ
△高橋長秋(大阪五十八銀行頭取)　天眞樓へ
△安田不二丸(統監府技師)　巴城館へ
△小林重威(同書記官)　同上
△鶉尾謙親(鐵道管理局技師)　天眞樓へ
△米田平城(陸軍砲兵大佐)　浦尾へ

近事片々

▲伊公●　桂侯暗鬪の傳說眞なるか輓近桂侯勢力增大伊公嫉妬心起る暗鬪到底不可避
▲得意●　なれば酒を呼び妓を聘し縱談放論英雄を氣取逆境には忽ち長縮宛然腕白小僧
▲伊公●　は大宰相磐根錯節の利器ならず公自ら知るを以て自己以上の勢力を嫉視す
▲拓殖●　會社に滿鐵の如く勢力を持たしめば公の勢衰ふ虛榮心强き公到底忍ぶ不能也
▲隨所●　に山の大將已れ一人と意張りたきは公の持病他の勢を妬む亦之が爲稚氣可愛
▲曾禰●　副統監遙に桂侯に慇する爲御覺目出度からずと公の爲には速に勇退が得策也
▲完用●　允用兄弟は族戚朋黨及任善準を招て密議を凝し一致團結敵に抗る計畫整ふと
▲韓國●　政治家は國家の威念よりも族戚の念强く政權を爭は一門榮華の爲是衰亡の因
▲閔居●　時代には閔族の蔓れる我源平の爭に似たり眼中無國家渠等保護と合併不關焉
▲暴徒●　被害賠償は韓政府の責任なるは無論なれど統監府亦責任あり速に解決すべし
▲責任●　ある韓政府拱手統監府の爲す儘に傍觀す斯る事は韓人狡猾且巧油斷す可らず
▲狡獪●　すれば何時でもペテンに懸らる斷乎として其責任を盡しめよ短兵急を要す
▲山梨●　縣警察部長官舍に藝妓を引張込み知事の來や男女素足で逃出し大問題となる
▲武田●　知事其不始末を憤り檢擧せしむ終に南方其內務省に稟申せりと風紀振肅問題
▲若し●　之が統監府官舍の出來事とすれば日常の茶番耳風紀振肅を大に叫ぶ必要あり
▲獨逸●　が英國を孤立せしめむと謀るや久し英國海相に送し獨帝書簡タイムス素破拔
▲獨帝●　の對英陰謀顯れ英國民怒る火事盜的外交時々味噌を付る獨帝は平和攪亂者也
▲米國●　番陀比耳士令孃二千四百萬圓持參匈國の伯爵に嫁く米人類に貴族に成たがる

●連絡船遲着　關釜連絡船は風波の爲め昨日午後三時釜山に着したるを以て郵便物は連絡列車に接續するを得ず已を得ず釜山局に止め置き本朝の直通列車に搭載して發送されたれば日本よりの郵便は一日遲着すると云ふ

●税關長の晩餐會　宮木仁川税關長は本日午後六時より新任[illegible]次席の高山氏を主賓とし銀行會社十數名を招き晩餐會を開く筈なりと



乾元節提灯行列

一昨日は乾元節なりしかば漢城府民團の提灯行列を催し韓皇帝の聖壽無窮を祝したり其景況を記すれば城内五署の居住者一戸一人宛加はることとなれば其數殆んど二萬餘に達せり之に各學校生徒を加ふれば殆んど三萬なりしなるべし府民團は兼て定めたる鐘路なる商業會議所前に集合し各學校生徒は光化門前に集合し午後七時となるや先づ各學校生徒出發し續いて府民團は漢城府尹其他の指揮に依り韓國古樂たる鐲鼓、胡笳及び鐘等の鳴物入にて賑々しく押し出し其洞々に別ち大國旗又は大行燈に聖壽無窮など書したる大行燈を押立て老人と云はずチョンガと云はず各太極章の球燈又はカンテラを振り照らしたれば其火光の凄しきこと筆紙の盡す所にあらず遙かに之を望めば火龍の蜿蜒るが如く又火塊の怪物とも云ふべく其壯觀實に云はん方なく先頭は敦化門前にあるも後尾は商業會議所内にありて鐘路より東大門通の大廣ぎに塡充しつゝあり此間をイルミネーションをなせし電車は間斷なく往來するを以て其混雜云ふばかりなかりしも中署東署其他の憲兵との取締嚴重なりし爲め一の怪我人も出さず無事敦化門前に至り皇帝の萬歳を唱へ夫より前路に引返し大漢門前に至り太皇帝の萬歳を三唱し又々前路に戻り鐘路に至り茲にて大韓帝國の萬歳を三唱して解散したるは午後九時頃にて盛大なる行列なりしが生憎寒氣甚しく雪さへ降りしも列を離れしものなく豫定通り行動したるは熱誠の程も知られたり此行列中扈衛隊數十名が旗を持ち例の赤い紗の提燈籠を携へ腰に鈴を掛けたるは最も異彩を放ちて見へたり此盛擧を觀んとて集りし韓人は東大門通りより大漢門前に堵をなして一時は通行に困難する程なりし

●仁川局の電信統計　仁川郵便局に於ける先月中の內外電報發着通數及其料金を聞くに左の如し

		和文	歐文	諺文	計
韓國內電報	發	三,[illegible]九	[illegible]	三〇一	三,九[illegible]
	着	四,四九九	百四	一六四	四,七[illegible]
同中繼電報		一,九六八	—	—	一,九六八
外國電報	發	二,五四〇	一九九	—	[illegible]
	着	二,八六四	一九一	—	[illegible]
同中繼電報		一四三	—	—	—
總計		[illegible]	五三	[illegible]	一四,[illegible]

其料金は韓國內電報料金は七百三十五圓十六錢外國電報、內國料金千二百六十八圓二十八錢外國電報の外國料金は千二百二十八圓三十八錢なりしと

●仁川驛旬報

乘車人員	一千六百五十二人
降車人員	一千三百七十二人
發送噸數	三千二百三十八噸
到着噸數	三百十九噸
乘客賃金	二千二百四十八圓四十一錢
小荷物賃金	百十六圓三十三錢
發着手數料	九百五十九圓二十九錢

●閔井丸の出帆　仁川税關の沿岸監視船櫻井丸は沿岸取締及び燈臺局材料を乘載して本日小青島及び鎮南浦に向け出帆する筈

●松壽院敬吊會　過般薨去せられたる故一條松壽院は東本願寺主の伯母君に當らるゝを以て南山同院に於ては昨日午後一時より敬吊法會を執行せり

●嶠南學會發起　去る八日普光學校內に嶠南學會發起會を開催せり來會者百四十餘名に達し臨時會長は金重煥氏を選定し崔廷德氏は習慣改良の問題に付演說したる後閉會したり更に來る土曜日に總會を開きて役員を選定するといふ

●府妓設置中止　承寧府の管轄の下に妓生二十名を設ける筈なりしが該府侍從李龍漢氏が宮相李允用氏を訪問し妓生設置の不可を說き極力反對したる結果妓生設置案は中止さる

再び光岡右夫人竹子
趙重應の不埒

法部大臣趙重應の妾たる即ち右夫人なる奇怪なる名稱を有する東京鎌倉河岸なる葬式一切屋の人足光岡某の女竹子のことは前號に記せしが兩三日前竹子は日本服に狸か犬の毛皮の襟卷をなし其夫否旦那なる趙重應と共に人力車に乘り其前後を日韓の巡査に護衛させ意氣揚々として何れへか外出せしを見たるが元來趙重應に巡査の警衛を附するは彼れが大臣としての警衛なるべし然らば彼れが妾たる右夫人と共に外出せしは果して大臣の資格を以て外出せしや之れ個人としての外出なりしなるべし若し個人としての外出に際し巡査の警衛を受くるは實に不埒極まる趙重應の行爲といふべし若し又趙にして常識あらば此の如きは自ら其警衛を辭すべきなり之を悟らずして數名の巡査に警護させ意氣揚々として大道を濶歩するとは實に怪しからぬことならずや又光岡竹子は皇后の贊講として小宮夫人の補佐たるも竹子なるもの贊講たる學力あるものにあらず彼女は小學讀本さへ讀み得ず皇宮に御敎授申上る際は其前誰れにか敎授を受けたる敎授申上る丈を暗記して皇后の御前に出ると云ふ說あるにあらずや此の如き女は愈よ以て本邦婦人の醜[illegible]なれば婦人社交界より排斥するは在留官婦人中の最も急務なるべしと信ずるものなり

千五百圓の拐帶

闘り知るべからざるものは人の心なり正直なる者も時に出來心の生ずることあり況して韓國まで流れ來つた者には尋常一樣の者は甚だ稀なれば番頭手代に至るまで嚴重に監督を爲さゞれば飛んだ迷惑を生ずることあり爰に本町五丁目釘本藤次郎方の雇人に梅原常平といへる者あり見かけの甚だ正直相なるより主人も心置きなく何事も任せける[illegible]郞が第一銀行に預け入れをなすため金一千四百十五圓十六錢に相當する現金小切手及び郵便爲替分を此の常平に托したるに常平は第一銀行へは預け入れを爲さずして豫て機會もあらばと逃走の用意を爲し居りしものと見えて其の內金四十三圓は既に注文し居りたる洋服代として本町一丁目の奥田洋服店へ仕拂ひ其の洋服を着して殘金千三百七十餘圓を拐帶し高飛びせん考にて南大門驛に至り乘車せんとする所を追手のために捕へられ其筋へ告訴せられ昨日檢事の手によつて委託物費消委託物拐帶犯として理事廳裁判所へ起訴せられたり

●取り殘されし片鶉　ソレ程に好きさんが戀しくは吾妻コートでも肩掛けでも勝手なものを七ツ屋に曲げ込みて○の工面を爲し京釜線の急行列車に打ち乘りて釜山に赴き男の膝に取り縋りてヨヽと許りに泣き崩れ早くわたしを自由の身体にして一日も早く貴郞の側で苦勞をさして頂戴と縋り付かば豈夫何んな薄情な男でも滿更厭とは斷らざるべきものを唯明け暮れ東の空を眺めては出で行く汽車の殘る烟に戀しくの思を焦がすのみにてはイツカナ埒の明くべき時とてもあらざるべし、戀は曲者古より迷ひ込みては煩惱の果報か因果か知らねども女と生れし上からは何うで一度は世の殿御と苦勞をせずばならずナニ恥かしきことのあるべきぞと長たらしき口上は廢しにして爰に記るさんに所は太平洞の初音亭におはるといふ酌婦あるが此の女御面相の程は十人並にてヤハリ顏の眞中に鼻がありて座敷の取廻はした客のもてなしはなか/\達者なもの世辭で丸めて浮氣で捏ねて上げて下ろしてグンニャリと熔ろかす工合などは何うして水際立つた腕前なるが何ういふ都合か此の女贔前程客が好かず斷して掛けた取り餅に折角捕へし雄鳥の數もなか/\少なからねど何れも長持ちはせず時に依ると返つて色の呼吸を嚙み分けた浮き男に掛りてはアベコベに無け無しの着物迄絞り取らるゝ意氣地なさ加減其の意氣地なさの有形無形の差別は知らねども兎も角何處かにさる欠點のありと見ゆされど世の中は一概には行かず捨つる神あらば助くる神もある譬へつい先頃より此女に現を拔かし通ひ廓の樂みはシッポリ濡るゝ夜の雨と伊達衣裳に蛇の目の傘を差し翳し剛州張りの大口屋曉雨を氣取つたイナセ姿の兄哥ありけり此の男雨が降らうと風が吹かうとそんな事には一切頓着なく切々とおはるの許に通ひ居りしが氣休めならぬ一夜の情二度もどうやら三度でなく三度の緣に下帶解いて互に契る心さ心つひ女も憎からずなりて末は夫婦約束の起請さへ取り交はせしに會者定離の佛法の譬へは廻る因果の小車のグルリ/\と變にも向はり來りて男は此度び親方と共に釜[illegible]抱き淚ながらに[illegible]別れの名殘を惜みたれ互にソレ迄は健氣で逢者で暮さばやと玆に袂を分ちたるが其の後三日待てども四日待てども男の方より便りなきより取り殘されし片鶉の身の女は痛く心を惱まし明け暮れ東の空を眺めては戀し/\に眼を泣き腫らし居るとか

●人の妻を奪ひ去らんとす　去る九日午後七時頃南署銅峴分署へ[illegible]洞の崔昌根なる者出頭して自分の親戚なる池熙成方へ鄭元明なる者四名の手下を引連れ來り熙成の妻（三十）を奪ひ去らんとするに就ては保護あらんことを請ふとの訴へにより居合の巡査直ちに出張して元明を連れ歸り取調べて見ると熙成の妻とは久しき以前より密通し居りて彼れは熙成を嫌ひ自分に十二分の愛情を捧げ居りて一日も速かに連れ歸り呉れよといへるより今日來れるなりと答へたるが署長は倫理の道を說き聞かせければ元明も悟る所やありけん此の事は全く思ひ止まり將來不義の密通は爲すまじと誓つて引き退りたりと

●韓軍隊の只飲み　去る八日は日曜日のことゝて韓國軍隊の軍人も鳥の籠より出でしが如く三々伍々手を携ねて市中を散歩するを見受けたるが近衞一中隊の曹錫均、李花桃、李宗先の三人は椒洞七十統三戸の酒舖申龍其方に至り八十錢ばかりの散財を爲したるが何れも懷中無一物にて軍人たるの威力を以て飲み逃げを爲さんと企てしを龍其は早くも夫れと見て取り銅峴分署へ訴へ出たるにより巡査出張して取調べ近日屹度仕拂ふべく契約せしめて放免したりと

●甘い物喰つて監獄へ　龍山の疑獄事件の餘波ともいふべく彼の民長代理大村百藏を脅迫して僅かに三十圓をせしめたる佐藤幸助は重禁錮一ヶ月十五日罰金三圓監視六ヶ月に同連累者關戸衛は重禁錮一ヶ月十五日罰金二圓監視六ヶ月に判決せられたり

●毆つて十日　永樂町一丁目の左官手傳人國廣萬吉（二十）が去る七日明治町二丁目の春澤はつ方の酌婦茨木ナツの面部を毆打せしことは既報の如くなるが昨日南部警察署に於て十日の拘留に處分せられたり

●自轉車乘の科料　本町三丁目森久兵衞方の雇人米田德藏（二十）は去る七日午後五時過往來人の頻繁なる明治町二丁目の四つ角を號鈴を鳴らさずして自轉車を走らせしために科料金二十錢に處せらる

●又もや韓人の强盜　去る三日明洞坊南椒洞百四統十戸米商黃鐵洗方へ白刄を携へたる二名の强盜[illegible]を白紙にて包み表口屋根を踰越して入り家人を[illegible]押し込み主人を脅迫して物品二十八點（此代七十餘圓）を强奪し去れりと

●商業界　[illegible]記事の完全になり行く[illegible]はいとも嬉し[illegible]熱心に研究せんとする處本號にも土子金四郞氏の經驗談として「ドゥすれば最も適當なる使用人が得られるか」「ドゥすれば最も有效に使用人を働かせ得るか」の難疑問を最も平直適切に解釋せるもの正に雇人使用者の取つて以つて參考となすに足るべし其の他諸名家の實業界に於ける實驗談及び現下商業界の情勢等一として漏すなく讀者をして其の趣味と實益との豊饒なるに嘆服せしむるものあり（第九卷第三號東京同文館發行）

●新公論　本號には本誌の主張として見るべき論文一もあるなし唯東都名家の言說及び修身上の格言並に人間處世上有益なる記事等にて滿誌を埋むるのみ先づ概して平靜穩健强いて疵を言はゞ切り拔きの材料の聊か眼立ち過ぐるにあるべき乎（第廿三年第三號發行所東京市本郷東片町新公論社）